令和3年度 現職研修助成事業研修報告書

光市立島田小学校

1 研究主題

「学びのつながり」をたどりながら、
運動や健康との関わり方を語り合う子どもを育てる

2 研究主題について

令和4年度中・四国小学校体育研究大会山口県大会が本校と光市立浅江小学校で開催されることとなった。山口県小学校体育連盟が掲げている研究主題は以下である。

よりよいスポーツライフを志向する
体育科学習　～「振り返り活動」での意識を
手がかりにして課題解決の質を高める

これを受け、本校は共同開催校である浅江小学校と同じ研究主題を掲げ、連携しながら研修を進めていくこととした。特に、「学びのつながり」を児童に気付かせるような手立てや、対話的な活動、自己や他者の学びの価値に気付き、新たな学びにどのように関わっていきたいかを表現する「振り返りの場」は、2校が昨年度まで授業研究を行う際に、大切にしてきた手立てである。そこで、これまでの研修の成果をふまえた上で、体育科を中心とした授業研究を行うこととした。

また、本校は山口県教育委員会から「令和3年度英語教育改善プラン推進事業研修協力校」にも指定された。そのため、英語教育推進教員を中心とし、外国語活動や外国語科の授業研究も行った。その際には、研究主題を『「学びのつながり」を感じ、自分の思いを伝える児童の育成～評価場面の工夫を通して～』と掲げ、体育科の研究との関連を図った。

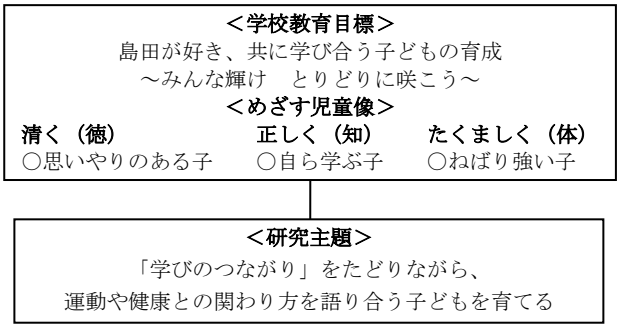
3 研究計画

本年度の研究は、授業実践をとおして研究主題解明に迫ることを第一義ととらえ、体育科および外国語科の授業研究を実施することとした。11月に開催される小体連プレ大会、12月に開催される英語研修協力校授業公開を一つの通過点ととらえ、それぞれの場において、経過報告や成果発表が行えるよう、各教科の研究にあたってきた。

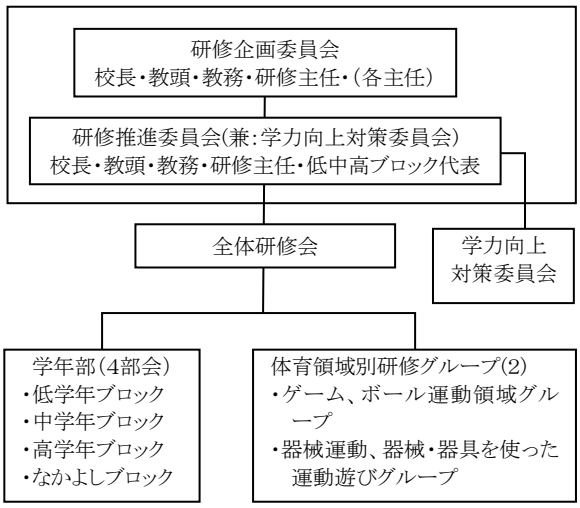
体育科授業については、これまで研究授業を行ったことのない教員もいることから、多くの者が意見を出し合い、目標レベルでの共通理解のもと、体育授業をデザインしていく手法をとることとした。そのために、通常の学年ブロックでの研修に加え、小体連から本校が割り当てられている領域ごとのグループでの研修を実施し、全員の指導力向上を図ることとした。また、浅江小との合同研修を指導案検討の際から行うこととし、感染症拡大下では、オンライン協議も積極的に行った。

英語授業においては、5・6年生を中心に、英語推進教員を中心として研修を行うこととした。また、英語、体育と教科が異なっていても、研究主題に掲げる「学びのつながり」や、主体的に児童が取り組む学びの場づくりなどは、共通の課題として研究を進めることとした。

4 研究の全体構想



5 研究組織



6　研究の実際

(1)　研修実施内容

月	研　修　内　容
5月	○　研究主題、研修の方向性の共通理解 ・中・高学年における器械運動領域の授業の仕組み方についての研修 【指導者：学力向上推進リーダー　中谷　靖彦　浅江小教頭】 ○　全国学力・学習状況調査、県テストの結果分析と具体策の検討
6月	○　浅江小研究授業(2年ゲーム領域)に関わる合同研修
7月	○　特別支援教育研修 【指導者：光市地域コーディネーター　新山　律子　光井小教諭】 ○　第3学年体育科授業　授業者　小山田教諭 「選んで 試して チャレンジ マット」（B 器械運動　ア　マット運動） 【指導者：周南市立桜木小学校　前川　孝　校長】 ○　中四国体育研究大会山口大会プレ大会に向けた教材研究
8月	○　体育科　器械運動領域・ゲーム領域の指導案検討 ○　外国語科・外国語活動、特別支援教育、人権教育研修、教育課程復伝
9月	○　第5学年　外国語科授業　授業者　味村教諭 「Can you do this?～自分のできることを伝えよう～」 【指導者：山口大学教育学部　猫田　和明　准教授】
10月	○　第6学年　外国語科指導案検討 【指導者：山口県教育庁義務教育課指導班　櫻井健一郎　指導主事】 光市教育委員会学校教育課　加藤　剛　指導係長】
11月	○　中・四国体育研究大会山口大会プレ大会　授業公開 ・第3学年　体育科授業　授業者　金子教諭 「つなごう　決めよう　グリッドYDアタック」　（Eゲーム　イネット型ゲーム） ・第4学年　体育科授業　授業者　市川教諭 「決めて　合わせて　ハイッ！ポーズ！　シンクロ跳び箱」（B器械運動　イ跳び箱運動）
12月	○　英語教育改善プラン推進事業　研修協力校授業研究会　授業公開 ・第6学年　外国語科授業　授業者　内冨教諭 「My Favorite Memory～三井小の友達と小学校の思い出を紹介し合おう！～」 【指導者：山口大学教育学部　猫田　和明　准教授】 ○　第1学年体育科ゲーム領域授業指導案検討
1月	○　第1学年　体育科授業　授業者　牧野教諭 「最強のチームをめざせ！　力を合わせて　ねらって　投げて　鬼退治」 （Eゲーム　ア　ボールゲーム）
2月	○　体育研究山口大会授業研究会 （山口県小学校体育連盟、浅江小との合同研修を実施予定） ・第4学年　体育科授業　授業者　市川教諭 「ねらって　つないで　ゴーシュート！～ディスクゴール」　（Eゲーム　ア　ゴール型ゲーム） 【指導者：帝京大学　高田　彬成　教授】 ○　研究のまとめと次年度の研究の見通し

(2) 授業実践例

第3学年1組　体育科「つなごう　決めよう　グリッドYDアタック！」　(E　ゲーム　イ　ネット型ゲーム)

① ね　ら　い

みんなでつないでアタックできるように工夫した規則で動きを試し，自分たちに合った動きの方向性を見出しながら，グリッドYDアタックゲームを楽しむことができる。

② 準　　備

ソフトバレーボール，ビブス，コーン，コーンマーカー，ネット用ゴム，作戦ボード　など

③ 学習展開

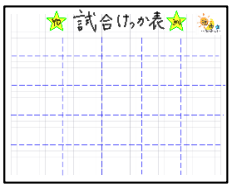
学習活動・学習内容	子どもの意識	教師の働きかけ
1　自分やチームに応じた動き方について共有し，本時のゲームについて話し合う。 ・目指すゲームでの動きのイメージ ・アタックのポイント ・ボールをつなぐよさ	・前回は，みんなでボールをつないでアタックまでできたけど，得点が決まらなかったな。どうしたら，点が決まるのかな。 ・赤ゾーンでは強く打てるので得点が決まったよ。なるべく，赤でアタックを打ちたいな。 ・ボールのつなぎ方にもこつがありそうだな。どのようにつなげばよいかな。	○前時までのゲームの様子を動画で視聴したり，子どもの振り返りを交流したりすることで，本時のゲームや自分たちに合った運動の場の見通しが明確にもてるようにする。 ○今まで見出した動きのポイントやチームへのよい関わり方を掲示しておくことで，本時の見通しがもてるようにする。
たくさんアタックをしたり，得点を取ったりするには，ボールをどうつなぐといいかな		
2　選択した作戦に応じた動き方を工夫しながらゲームをする。 ・作戦に応じた個人や集団の動き ・作戦に応じたパスの仕方 〈作戦〉 1　2　3（打目） ・1→赤　赤作戦 ・1→黄　赤作戦 ・1→青　黄作戦	・味方からのパスを予想して動きたいな。 ・アタックを強く打ちたいから，2回目のパスは赤ゾーンに出す赤赤作戦を試そう。 ・○○さんはアタックがうまいよ。前にいるといいかもしれないね。 ・記録を見たら，赤に出しているのはいいけど，ネットに近すぎるとアタックが打ちにくそうだよ。 ・味方に体を向けてつなぐと，黄赤作戦も上手くいくかな。 ・2回目のパスは，ゆっくり，赤ゾーンにいる○○さんに向かってつないでみよう。	○これまでのゲームで得点につながっていた動きを作戦として提示することで，自分たちに合う作戦を選択し，目指す動きの方向性を明確にできるようにする。 ○作戦を選択する際には，アタックや得点につながる動きを記録した表を参考にすることで，よりチームに合った作戦を選ぶことができるようにする。 ○どのグリッドからアタックしたのかを兄弟チームで記録することで，作戦の成果や課題を共有することができるようにする。
3　活動を振り返り，チームに合った作戦や自他の役割について話し合う。 ・アタックまでのつなぎ方 ・自他の変容 ・次時の見通し	・どの作戦にしても，パスが大事だと分かったよ。 ・共通しているのは，後ろから前につなぐということだね。 ・上手くつなぐとアタックしやすかったから，自分たちには黄赤作戦が合っていたよ。 ・アタックを打ちやすくするために，次の試合ではボールに合わせて赤へ走りながら打ってみよう。	○今までの対戦成績や記録表を比較したり，作戦に必要な動きと実際のゲームでの動きとの違いを交流したりすることで，よりチームに合った作戦について考えていけるようにする。 ○アタックや得点を増やすために，自分はどんな動きをしたいかを記録することで，次時への見通しをもてるようにする。

④ 場の設定

11／12　つなごう　決めよう　グリッドYDアタック！

め　たくさんアタックをしたり，得点を取ったりするには，ボールをどうつなぐといいかな

基本のルール
- 3対3
- かた手か両手を使う
- コート…バトミントンコート
- 時間…前半3分，後半3分
- ボール…ビニールのソフトバレーボール
- サーブ…エンドラインから打つ
- 3回い内で返す



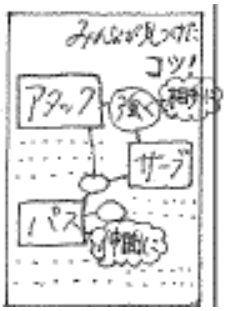
ゲーム　※当たるチームは変更あり
○1試合目　A対B　／　C対D
前半　3分
1：3　(2，4見る・記録)　5：7 (6，8)
後半　3分
2：4　(1，3見る・記録)　6：8 (5，7)

○1試合目　A対C　／　B対D
前半　3分
1：5　(2，6見る・記録)　3：7 (4，8)
後半　3分
2：6　(1，5見る・記録)　4：8 (3，7)

1赤赤作戦

1黄赤作戦

1青黄作戦

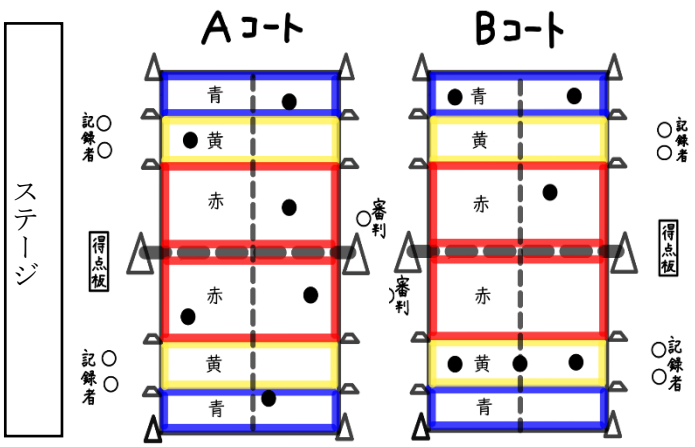


⑤　考察

○　「学びのつながり」を意識した手立て

・単元を貫く課題の設定

単元の始めにどんなゲームを目指すかを問うと「みんなが楽しいゲーム」という言葉に集約され、単元を貫く課題として共有した。個々の中にある思いを全体で確かめることで、みんなが同じ方向に向かうことができた。単元の途中でも、勝敗にこだわりながら「みんなでつなぐと楽しい」「自分たちも相手のチームも楽しめるようにもっと強くなりたい、そのために…」と課題とつながる振り返りがみられた。ただ、ゲーム領域の特性から考えても「みんなで楽しむ」ことを中心に据えたり、それを目的としたりしないように気を付けたい。



・児童が見出した自他の動きのポイントや学び方の掲示

自チームがゲームをするとき、兄弟チームの試合を見るとき等、気付いたことをチームボードに書けるようにした。

児童が見出したものを分類し掲示することで、個々の技能面の向上やチームプレーについて話し合う際の手掛かりにしていた。児童から出た問いや次時につながる課題も書き加えたことで、学びのつながりを可視化する手立てとなった。しかし、書き方を工夫したり提示するものを精選したりすることで、学ばせたいことと、学ぶ子どもの意識がつながるようにしていく必要がある。

○　運動への関わり方を語り合う力を育てるための手立て

・コートをグリッドで分けたこと

センターラインから順に赤黄青の3つに分け、中央線を引いたコートを使用した。子どもたちは「赤にパスを出そう」「ぼくは青で守る」「赤の右がアタックを打ちやすい」と色やコートの左右を使って語り合っていた。単元が進むと、色に着目したつなぎ方や作戦（本時）も挙げられた。

・記録表の活用とチームワークシートの蓄積

本単元では、グリッドのどこからアタックを打ったかを兄弟チームが記録した。ただ気付きを交流するだけでなく、記録をもとにしてアタックを打つ位置、回数、得点を関連付けながらチーム内で話し合う姿が見られた。また、チームワークシートに蓄積したことで、これまでの学びや経験を振り返りながら作戦を立てたり新たな課題について考えたりしていた。運動の特性や児童の実態に適した記録方法（客観的指標）を吟味したい。

・振り返りの視点の焦点化

今回、ゲームを振り返って話し合う際は、気付き、めあてに対するチームの状況、行い方の修正等、視点を設けず自由な話し合いの時間とした。振り返りの視点を焦点化することで、運動時間を確保し、動きを確かめたり試したりしながら学ぶ機会を大切にしていきたい。

○　単元の学習をとおして

単元を構想する時に、「いかに子どもの意識を想定して単元を作っていくか」が重要であることが分かった。これまでの学習経験や子どもが表出したもの、その背景に着目し、それらをしっかりと見取ったり価値づけたりすることが大切だと考える。単元が終わってからも、子どもたちは「次の YD 決戦はいつか」「次は YD ドッジをしよう」と口々に言っていた。なぜかを聞くと「みんなで協力して頑張るのが楽しい」「チームでするから楽しい」「上手くいかないときも友達が助けてくれる」と答えてくれた。それぞれの力を生かし、認め合いながら仲間と共に楽しもうとする姿に感心するとともに、子どもたちがもっている力や思いを存分に発揮して学んでいける授業を作っていきたいと感じた。

7　成果と課題

本年度は、来年度の中・四国体育研究大会山口大会に向けて、体育科の器械運動領域、ゲーム領域を中心に授業研究を行った。指導案検討の前に、授業構想雑談会を実施するなど、スモールステップで研修を行うことで、授業者以外の教職員も、自分事として授業研究を行うことができた。また、年間を通して、浅江小と連携しながら研修を行った。互いの研究授業を参観し、研究協議を行ったり、オンライン研修で教材研究を行ったりするなどし、研究を深めることができた。ただ、「振り返り活動」の仕組み方、運動の特性を大切にした単元構成等が今年度の課題として挙がっている。今後も、全ての児童が、運動の楽しさをさらに味わったり、自分の学びを見つめ、そのよさや意味を見出していくことができたりするような体育科授業を目指し、授業研究を行っていきたい。